

“装蹄師の卵たちへの研修を終えて”

平成25年6月25日、公益社団法人日本装蹄協会の1年間の装蹄師認定講習会の受講生を対象に、講義をしてきました。この研修会の受講生は、毎年7月下旬に北海道実習を行っているので、日高を訪ねる前に生産地の肢蹄管理に関する実態を予備知識として理解させておきたいとの主旨で、本研修は実施されました。

講演内容

“アシや蹄を学ぶ”

最初に肢蹄に関する基本知識として蹄の成長(発達)と生長(伸び)、蹄の色などについて説明し、さらに子馬の肢軸異常の判定基準の基本的な考え方を、Grade 1～3(軽度～重度)のX脚を例に説明しました。特に肢軸を評価する場合の注意点として、駐立検査に頼りすぎることなく、まずは常歩で歩かせ、踏足の瞬間に肢軸の異常を見極めることを重視した歩様検査が大切であることを伝えました。

次いで各種肢軸異常の矯正方法を、X脚、球節内反、O脚の症例等を例に挙げて説明。子馬には自然治癒力があって自然に治ってしまう場合もあるが、治り難い場合の対処法として、矯正用シューズ、張出しプレートや充填剤を使った矯正法を紹介。自然に治癒する症例の見極めは難しいので、矯正中も経過を良く観察することが大事であることを理解させました。たとえば基本的には、先天性の異常であれば3～4ヵ月齢までに治しておくことが望ましく、経過が長引けば治り難くなるので、可能な限り初期段階のうちに見つけて適切な対処をすれば、その多くは良化することを教えました。

次に浅屈腱や深屈腱の拘縮により発生する突球やClub Footについて、模式図を使って説明しました。まずは浅屈腱と深屈腱の主な働きを理解させ、それら異常の確認方法、Grade 1～4(Club Foot)の症状、発症メカニズムを説明した後、その対処法では、運動制限、薬物療法、充填剤応用等の効果について解説しました。また、Grade 3や4へのClub Footに対する最終手段である深屈腱支持靭帯

の切断例についても、処置後の経過を示しました。Club Footが残存し、不同蹄となった場合の馬の価値の低下や競走馬としてのリスク、あるいは狭窄蹄矯正用Hinge Spring Shoeの効果も紹介しました。

また、繁殖牝馬の手入れ不足による蹄のトラブルを予防するための4 Point Trim法を紹介し、繁殖牝馬の蹄を健全に保つことが結果的に安産や子馬の健全性にも大きく影響することを理解させました。

“肢蹄矯正や保護材料あれこれ”

蹄の矯正や保護材料として最近注目されているCarbon(炭素繊維)とKevlar(防弾チョッキや防火ズキンの素材)を綾織りした布(米国:Cobra sox)を蹄に接着して肢軸矯正や蹄を保護する方法についても紹介し、さらにゴム素材で出来た蹄鉄であるHorse Slipsや蹄鉄の型に充填剤を注入し、それが固まって蹄鉄になるQuix Shoeについても説明しました。

実習内容

“充填剤の応用”

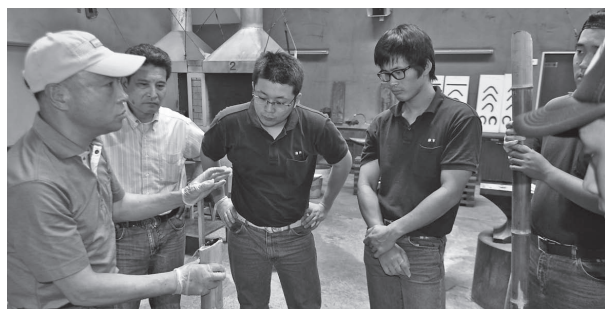
持参したヴェテック社製のアドヒヤー、スーパーファースト、エクイパック、エクイロックス、Carbon Kevlar綾織り、Kevlar平織り、張出しプレートを使った各種矯正法について、輪切りにした孟宗竹を蹄に見立て、それぞれの用途に応じた接着法を実演・紹介した後、受講生にも実践してもらいました。また、蹄の保護に用いるQuix Shoeの実際の使い方についても実演しました。

おわりに

研修の時点で講習者は入講して3ヵ月足らず。まだ一般的な装蹄に関する基礎知識や技術を習得し始めたばかりの駆け出しであり、成馬に接する機会があっても、生産地の繁殖牝馬や生後間もない子馬を見たこともなく、子馬の肢軸異常の矯正方法などはまったく未知の話題であったように見受けられました。そのためか、座学の講義中には受講生からの質問はほとんどなかったが、実習では、現物を前にして大いなる興味を覚えたのか、彼らからも少しずつ忌憚のない質問が寄せられるようになりました。彼ら受講生11名が生産地日高を訪れたとき、本研修の成果が花開き、これまでとは一味違った北海道研修となることを期待して装蹄教育センターを後にしました。ガンバレ、装蹄師のタマゴたち。



座学風景



実習風景